

住んでよかったです 住んでみたい町



2004
(平成16年)

広報せいとん

題字は直原玉青氏

8



暑さ本番 町内海水浴場にぎわう

七月一日、慶野松原海水浴場で、安全と無事故を願い海開き神事が行われ、海水浴シーズンが開幕しました。晴天に恵まれた七月十七日(海の日)の三連休は、慶野松原海水浴場に島内外から約一万人の海水浴者が訪れ、波打ち際で遊ぶ家族連れや浮き輪で泳ぐ子ども達の姿が多く見られました。

今月の主な内容

- 17年度より地籍調査を開始
- 南あわじ市の市章が決定
- 議会だより
- せい太くんフォトトピックス
- 淡路人形座の出張講座
- 子ども会相撲大会結果など
- 西淡町合併史 一人の心を育てる文化

(この用紙は再生紙を使用しております。)



町政ニュース その1

地籍で進めるまちづくり 平成17年度より調査開始



第1回目「地籍調査とは?」

■字限図（調査前）



■地籍図（調査後）



西淡町では、平成十七年度から地籍調査事業を進めたいと考えています。今月号より、地籍調査の事業についてご案内します。

第一回目は「地籍調査とは？」です。

◆地籍調査とは？
国土調査法に基づいて行われる、一筆ごとの土地の調査です。

◆調査方法は？
一筆ごとに所有者の立会いを得て、土地の正しい位置と形、地番、地目、面積

を確認し、近代的な測量によって地図（地籍図）と簿冊（地籍簿）が作られます。

◆作成された地籍図
と地籍簿は？
国に認可を経て法務局に送付し、登記簿が改められ、地籍図は「不動産登記法第17条地図」として備え付けられます。

※「不動産登記法第17条地図」
法務局に備えられる地図で、その土地がどこに、どのような形状であるかを明

◆問い合わせ
役場農地整備課（☎ 3311内線266）

西淡町では、平成十七年度から地籍調査事業を進めたいと考えています。今月号より、地籍調査の事業についてご案内します。

西淡町では、現地で境界を一定程度で復元できる地図の精度で復元できる地図のことをいいます。

こうして得られる成果は、まちづくりや土地取引などで、みなさんの地域を様々な面で利活用できます。調査する場合はご理解とご協力のほどよろしくお願ひします。



ゴミ拾いをする慶野地区の方々

町政ニュース その三



南あわじ市市章

町政ニュース その二

南あわじ市の市章が決定賞

第二十三回三原郡四町合併協議会が七月十四日に郡農業共済会館で開かれ、南あわじ市の市章デザインに田村愛子さん（南淡町）の作品が選ばれました。市章は四月中に公募し、全国から一八九七点の応募がありました。市章選定専門委員が二十点に絞り込み、その中から市章小委員会が五点を選びました。

この日、合併協委員がこの日、合併協委員がこ

の五点について一人一点ずつ投票し、田村さんの作品が最優秀賞に決まりました。作品は、あわじのアルファベットの頭文字「A」が真中にあり、それを取り囲む三つの輪が食づくり、人づくり、まちづくりを意味しています。

新市への想いが込められています。

地域をきれいに 全島一斉清掃を実施

「淡路島全島一斉清掃」が七月四日、島内全市町で行われ、参加した住民の方々は道路沿線や河川敷などの草刈りやゴミ拾いに汗を流しました。

全島一斉清掃は「みんなの町を、みんなの手で美しい環境に」と平成二年七月から始まり、淡路環境美化月間である七月と十一月に毎年実施されています。

この日、西淡町では、子どもから大人までの約四千人の方が早朝からゴミ袋を手に清掃。河川沿いに高生い茂った雑草も刈り取られ、自然の美しさを取り戻していました。

なお、町内で集まったゴミは、燃えるゴミ二十分、燃えないゴミ三十分、計二十分でした。

人間の本質

町長だより

暑い日が続いています。お変わりありませんか。納涼に夏祭り。私が十年前に作った曲を久しぶりにテープで聞きながら、この十年間で私自身の感性に変化があつたかどうか考察しているところです。

『ゆかた姿似合うかな』夏祭りうちわ片手に見上げれば夜空の花はかない命の心模様一つ二つと數えては巡り歩いて西淡の時を超えて溶け込んで僕だけの願いとらえたいああ大人になるために』

これは地域社会で精一杯生きていこうとする若者の姿を描こうとしたものです。詞を積み重ね、曲を作り、歌に仕上げました。人の本質はそう変わるものではありません。生きていく上で方法論、ものの観方、感じ方が変わってもです。では、私自身はどうだろうかと自問自答するわけです。

町長になつて十二回目の夏を迎えてます。最初は

宴席に出る料理の豪華さやコンパニオンという職業の存在に驚いたものです。亡き祖父が会の後、折り箱を持て帰つてくれるのを子どもの頃楽しみに待つていたことや、「食」に関しても刺身を食べた経験もなかつたことから、世の中贅沢している印象が強かつたのです。懇親会なのにお酒を飲んだりしたら話ができないじゃないかと思いながら、『まあこんなものか』と自分が納得させていました。付き合いだと思い、よくお酒も飲みました。ここ数年しかしそれも止めました。何の意味もないと考えているからです。議員にも私は思つた通りのことと言うようになります。私は変わつたのではなく正直になつてきただけのことです。ですから、私の言動は逆に三十代、二十代の自分に戻ることが多いのです。人間生涯を通じて貫き通さなければならぬことがあると考へる今日この頃です。

西淡町長 長江和幸

